

CBI 2001 年大会

医薬品研究の情報計算基盤

会期：2001年7月25日(水) - 27日(金)

会場：東京 こまばエミナース (東京都目黒区大橋 2-19-5)

実行委員長：石川智久 (東京工業大学 生命理工学)

開催の趣旨

21世紀を迎え、ヒトのゲノム解読に象徴される分子生物学の進歩と、IT革命と呼ばれるコンピュータとインターネット関連技術の進歩は、相乗するように関連する科学や技術を革新している。この流れは、医薬品産業における構造改革の流れと合流し、さらなる奔流となって関係者の意識改革を迫っている。今後日本においては、化学、生物学、情報科学の領域を早急に融合して、創薬に向けた研究基盤を構築することが是非必要である。こうした時代認識の下でこの大会ではメインテーマとして、医薬品研究の情報計算基盤を如何に構築したらよいかを産、官、学それぞれの立場から追求する。

招待講演

- 「分子認識と結合性の予測」
- 「ゲノム情報計算」
- 「創薬と臨床の現場を結ぶ」

イブニングセッション

- 「バイオベンチャーの戦略と将来」

招待講演者 (4月10日現在)

- John Findlay(Univ. Leeds)
- Garland R. Marshall(Washington Univ.)
- Tony Robards(The University of York)
- Stephan Sherry(NCBI/NLM/NIH)
- 秋山泰(電子技術総合研究所) ・ 新井賢一(東大医科学研究所 所長) ・ 宮城島利一(田辺製薬(株))
- 半田宏(東京工業大学ITイノベーション創造共同研究センター) ・ 長谷川好規(名古屋大学医学部)
- 広野修一(北里大学薬学部) ・ 乾賢一(京都大学医学部) ・ 伊藤隆司(金沢大学がん研究所)
- 金子恭規(Zyomyx) ・ 宮野雅司(理化学研究所播磨研究所) ・ 宮田満(日経バイオテック(株))
- 大滝義博(バイオロジックパートナーズ 社長) ・ 寒川光(日本IBM(株))
- 佐藤文俊(九州工業大学) ・ 和田昭允(理化学研究所ゲノム科学総合研究センター所長)
- Arthur Holden(The SNP Consortium)
- Edwin Matthews(USFDA)
- Carol Rohl(Univ. Washington)
- Tom Curran(St. Jude Children's Res. Hosp.)

ポスターによる研究発表 (一般発表)

1. 分子計算
2. 生体作用の分子認識、QSAR
3. 分子生物学における情報計算技術
4. 医薬品開発と毒性研究支援システム
5. 実験的なスクリーニングデータ解析
6. 新しい技術：高次WWW 応用技術

協賛企業による技術展

演題締め切り：5月14日(月)、予稿原稿締切：6月22日(金)、事前登録：7月13日(金)

募集要項等はWWW (<http://www.cbi.or.jp/>) をご覧ください。

申込先：〒158-0097 世田谷区用賀 4-3-16 CBI学会 大会事務局

TEL: 03-5491-5423 FAX: 03-5491-5462 E-mail: cbistaff@cbi.or.jp